

子供たちのために日本の未来を考える

広島県竹原市 栄谷 愛

広島に来て約十年経ちましたが、子供たちは八月になると原爆のことを紙芝居で話して頂くのだそうです。戦争の話は地域によって取り組みかたが異なります。また、昔と今では戦争についての教育の仕方も変わってきています。広島の人でも、中国や韓国との領土問題のニュースが流れると「攻撃すればいいじゃない」と子を持つ親も子供自身も簡単に言う事があって、危機感を感じています。

現在の日本人の多くは、戦争を知りません。私もそうです。今住んでいる広島県竹原市には戦争中、毒ガス工場がありました。今は工場があった島は国民休暇村になっており、そんなものがあつたとは思えないように整備されていますが、島を周れば当時の建物などが少しは残っています。私の夫は当時毒ガス工場で働いていた方のお話を聞いたことがあるそうです。「幸せになるガスを作っている」と当時の軍の人は言っていたそうです。

広島は、また、世界で初めて原爆が使用された所でもあります。原爆を開発した人達は、それが広島で炸裂した後もいろいろと思ひ悩まれたのではないのでしょうか。でも、原爆の製造に繋がった科学と技術が新たなエネルギー源の開発から医療技術にいたる様々な技術の発展に寄与してきたことも事実ですし、日本もその恩恵を受けています。政治のいざこざにより戦争の道具となってしまった技術はかわいそうです。昔から、様々な争いの中で武器は石や銅や鉄の時代から鉄砲、ダイナマイトなどの火薬の時代へ、そして、さまざまな化学兵器や核兵器の時代へと変化してきました。でも、原爆を造った技術者が人びとに不幸が訪れるのを望んでいたとは、私は思いたくありません。

宇宙工学の分野では、様々な惑星探査機の開発でいろいろな国が競い合っています。欧州宇宙機関と、アメリカ航空宇宙局によって行われている太陽探査機探査計画は当初2年間の予定であったものが、10年以上にわたって太陽観測が続けられております。宇宙のもたらす地球環境への影響も少しずつ分かってきています。これらの成果は、世界の人達の幸せのためにのみ活用して欲しいと願っております。

世界の食料需給が問題になっておりますが、食料の生産力については品種改良や土木工学、養殖技術の発展などにより、安定した食料生産が可能となってきました。しかし、農作物には表作と裏作があり、これが気候変動の影響を受け易いのは間違いありません。動物の活動もまた、気候に影響されます。今後、宇宙の活動の周期を知ることで分かってくることも多いと思われれます。そして、宇宙の動きが地球に与える影響を深く知れば気象学だけでなく、地学の研究の発展にも繋がるかもしれません。

しかし、これだけでは、世界の人口を維持する為の食料の確保は十分ではありません。経済成長に伴い産業の変化が起きて、耕作放棄地や連作なども含めて無理な農業を続けた結果、農作物が育ちにくくなった枯れた土地が多くなってきています。このような事情は、中国、アメリカ、オーストラリア、アジア各国も同じではないかと思ひます。今後、食料を確保するためには大なり小なり様々な取り組みの積み重ねが必要です。食料確保は世界の第一の問題ですが、今後、地球が抱える様々な問題についても、小さな取り組み、大きな取り組みを積み重ねて、解決しなければなりません。

これまで、地球上では戦争によって領土を広げ、食料や労働力などを手に入れてようとする行いがなされてきました。今の日本は、戦争はしない、と憲法9条で規定しています。自衛隊という組織が軍ではないかと言う人も多いですが、政府は、自衛隊は憲法第9条第2項にいう「戦力」にはあたらない組

織で軍ではないとしています。自衛隊は武器を装備し、領海侵犯や日本船の安全確保などに当たっていますし、世界の様々な震災や事故で救助や救援を行う仕事にも当たっています。憲法第9条の条文は、いろいろな解釈が可能です。この条文は、日本人の善人さ、善良な人間性を信じて作られたのではないのでしょうか。敗戦後憲法を作られた方々の思いは戦争を経験された方々にしか分からないのではないのでしょうか。憲法は戦争体験者からの後世へのメッセージだと思います。そして、私は、「自衛隊は日本国憲法第9条にいう軍にあらず」というこの曖昧さが素晴らしいと思うのです。

靖国神社参拝についてメディアは、様々な取り上げ方をしていますが、国のために戦って亡くなった方々に手を合わせる事は個人の自由である筈だと思います。そして、世界万国共通の事ではないのでしょうか。戦争というものは、人を殺してしまいます。日本だけでなくどの国が始めても戦争とは愚かな殺戮行為でしかないのです。そのような中で亡くなった戦没者にそれぞれの国民が手を合わせる事は、とらえ方は様々でしょうが、戦争で亡くなった方々に二度と戦争をしないという約束をし、誓う事ではないのでしょうか。

変わらぬ憲法とは裏腹に、日本では税法などの法律や規定、規則が改定され、それが国民の負担を大きくしている場合があります。また、税法の改変や法律の改変により一生懸命きりもりして来られた個人商店などの商売が成り立たなくなることも多々あるようです。今後、私たちは憲法に目を向けることは勿論大事ですが、法律がどのように変えられているのかに目を向けることも重要ではないのでしょうか。

東日本大震災以来、これからのエネルギー形態について様々な意見が表明されていますが、ただ賛成、反対だけを言うのではなくて、真剣に考える事、それが今、一番求められている事だと思います。原子力発電に反対な方は、それに替わる新たなエネルギー源またはエネルギーシステムの在り方について考えねばなりません。原子力発電を続けることに賛成する方は、それをさらに安全に運用する方法と使用済み核燃料の処理方法などを議論し開発していく必要があります。どのような方法で発電するにせよ、発電後の廃棄物などエネルギーを作り出す為に出たゴミをどう処理するか、人間が出すゴミをエネルギーに変える技術の開発などもこれからの重要な課題です。今後は新しい技術の良い点を活用しながら、江戸時代など古来より続いていたゴミが殆ど出ない生活システムなどの見直しも考えねばならないと思います。また、大量生産というシステムを、食料の面でもエネルギーの面でも、無駄を省くという観点を加えて、もう一度見直していく必要があるでしょう。

日本は幕末から昭和にかけて、少ない資源を上手に使い、政治手腕をもって危機を転機に変え、発展してきたのではないのでしょうか。このことを考慮すれば、今後の日本が必要とする人材は、判断能力に富む人です。危機対応には素早く正確な判断の繰り返し能力が必要です。他との交渉にも正確な判断力が必要です。物が無い時代や戦争が行われていた時代には、生きる為に必然的に忍耐力・持続力だけでなく、考察力、判断力が養われたのでしょうが、現在のように、物が豊富にあり平和な時代の中で、いかにして考察力や判断力を養成するかが問われています。日頃の生活での言行の中で、自分で考え、自分で判断して能力を鍛えて行くしかないように思います。常に、自分で考え、自分で判断して行動し、社会に貢献すること、これは大学で化学を専攻した私が、科学者・技術者の生き方として教わった大事なことなのです。私は今3人の小さな子どもを育てる母親ですが、子供たちが科学、技術というものに興味を持ち始めた中でどう学びどう関わっていかねばならないかを子供たちと一緒に考えていければと思います、この文章を記しました。